

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170101998		
法人名	社会福祉法人 イーストヘルスケアソサエティ		
事業所名	グループホーム スマイル		
所在地	岐阜県岐阜市芥見野畑1丁目25番地		
自己評価作成日	令和2年11月5日	評価結果市町村受理日	令和3年5月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2170101998-00&SerViCeCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和3年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルス感染症対策により入居者様には行動に制限をして頂いており、ご迷惑をかけております。ドライブや買い物等での外出や気分転換、下肢筋力低下の予防もできておらず、施設内での歩行や体操の時間を多く設け筋力低下を予防しています。10月になり面会も短い時間ですが初めています。以前は面会に変わり電話や写真をお送りして様子をお伝えしていました。日常生活での食事の支度、部屋の掃除、タンスの整理等、自分の事ができる方は自立の安全を確保し自由と管理された生活のバランスをとっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、静かな田園地帯に位置し、4階のリビングからは自然の景色を眺望できる。また、病院や施設を展開する法人グループを母体としており、密な医療連携体制があり、利用者・家族の安心につながっている。今年度はコロナ禍の影響で、散歩や外出に行けなかったり、各種行事の中止、家族や友人の面会も禁止等の状況であり、「何もできないと嘆きつつも、このままでは利用者のADLが低下する。」という危機感を持ち、様々な工夫をしている。コロナ禍中においても、利用者の様子を写真に収め、コメントを添えて家族に報告することで、家族との関係が深まったり、利用者により丁寧に寄り添うことで、利用者一人ひとりへの理解をさらに深めることができたとの成果も表れている。また、利用者のエンパワメントを高める観点から、利用者の生活スタイルを尊重しつつ、一人ひとりの主体的な活動を支援していくケアに取り組み、例えば、自分で行ったことで失敗してしまったことを問題にするのではなく、自分で行おうとした事を評価するというように、利用者の身体機能、性格、行動パターンを詳しく把握した上で、自主的な行動を引き出すことを大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念のもと、グループホームとしてのチーム目標に取り組み会議等で共有を図っている。	職員会議に加えて、事例発表会を行うことによって、法人の理念の浸透を図っている。今年度はコロナ禍の影響で滞りがちとの事である。	事例発表会という方法は理念を共有するために、とても有効な試みと思われる。今後とも、毎年継続して取り組まれることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域サロンへの参加、保育所の園児との交流。散歩しながらの地域の方との交流としている。現在はコロナウイルス感染防止のため中止している。	従来から地域との良好な関係ができていますが、今年度はコロナ感染対応のため、交流の場が持てていない。コロナ感染が収束すれば交流の場を持つ予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会サロンに施設の場所を提供している。施設の運営や理念についての説明、認知症のついで勉強会で理解を深めていただいている。現在はコロナウイルス感染防止のため中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を開催し取り組み状況の報告、意見交流をしている。外部の意見を参考にし、サービス向上につなげている。	今年度はコロナ禍の中でも、11月に会議の開催を行い、家族をはじめ、地域包括支援センターや民生委員等の参加があり、ホームの活動内容の報告をするとともに、委員間での意見交換が行なわれたとの事である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村からの情報や連絡を得て現状を把握し、情報は職員で共有している。	市担当課からコロナ対応等の情報提供を受けたり、ホームの運営状況の報告や介護保険制度等の疑問点の助言を得たりする等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について正しく理解する勉強会、身体拘束委員会を開催している。玄関の施錠はせず開放しており、見守りの中、自由に出入りできるようにしている。	法人で身体拘束をしないケアに関する委員会を設置し、手洗い、消毒等の対策に加え、3密にならないよう工夫している。また、毎月、委員会を開催して、話し合われたことは全職員に周知している。利用者の主体性を尊重する立場から、行動の背景等を考えつつ、待つ姿勢で見守り、寄り添うケアに努めるとともに、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については正しく理解できるよう外部・法人内で研修を行い、虐待に対する自覚、認識に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部・法人内研修・施設外研修で学び、その内容を介護で話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にはホームの見学をしていただき入居予定者様・家族様の不安や疑問に答えている。契約時には契約書・重要事項を説明し理解、納得を図っている。報酬改定時も家族に説明、話し合いを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回開催し運営状況について報告、家族様の意見・要望を伺う機会としている。(現状は書面で報告)。得た意見は運営に活かしている。	現在、コロナ禍の状況にあり、家族の面会を控えてもらっているが、コロナ禍の影響や利用者の状況について、家族から電話連絡をいただく等、意見や要望をいただく機会は増えたとの事である。いただいた意見は運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営会議・事業所会議にて職員からの意見を聞き、代表者・管理者は実現できるよう協力している。	介護職員が意見を言いやすい雰囲気がある。例えば、トイレの扉が開けにくくなった、換気扇の音が大きくてうるさい、椅子の足のゴムが劣化しているので交換して欲しい等、職員から多くの要望が出され、ホームでは素早い改善対応を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	安心して働ける環境や条件の設備、向上心を持って働ける環境に努め、研修に参加できる機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報提供、必要な研修への参加を促している。資格取得の動機付けになるよう勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員は協議会を通じて同業者との交流を図っている。勉強会等の参加でサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握。要望や不安等、本人や家族の想いを聞き入れている。本人に寄添い職員との良好な関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を受け止め、職員で対応策を話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族には不安や想いがある。必要としているサービスが適切であることを理解していただける信頼関係を築けるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を一緒に過ごすことで日々の言動から想いを探り、寄添うことで関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係性を大切に家族にしかできない援助をお願いしている。家族と職員が連携を図り本人の安心感につなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力のもと、関係性の維持・継続に努めている。馴染みのある場への外出を支援している。	現在、コロナ禍の影響で外出制限があるので、家族等とはリモート面談等を行っている。また、利用者に宛名書きをしてもらい、年賀状を出したり、家族からもらったりする等、関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いを支えあい、集団生活ができている。感情の起伏で関係が乱れる時は見守りをしてトラブルにならないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用中止後も家族の相談を受け、できる限りの支援している。利用後の本人の様子を確認し、必要に応じた体制作りにも努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から利用者様に寄り添う事で言動・表情から思いや意向を読み取れるよう努めている。一人ひとりに合わせ安心して支援が受けられるよう心掛けている。	利用者一人ひとりに若い頃の趣味、仕事、住んでいた場所等を丁寧に聞き取る等して、暮らし方等の希望や意向の把握に努めている。昔の居住地を確認できたり、趣味のトールペイントを楽しんでいた事が情報として把握できたとの事である。できる限り希望や意向に沿えるよう工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活背景等の知り得た情報と入所後の会話や言動観察を把握し、共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムやバイタルチェックで体調を知り、心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング・アセスメント・介護記録をもとにケア会議を行っている。変化があった時は都度、見直しを行っている。	利用者一人ひとりの状況をモニタリングし、本人や家族の希望や意向を詳しく伺い、できる限り、在宅での生活に近い過ごし方をさせていただけるよう、ケア会議で職員間で話し合い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活での気づきや申し送り、連絡ノートで情報を共有している。グループ会議で個別処遇について検討し介護計画を見直し実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ、柔軟に対応できるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	不定期だが、ボランティアの方に訪問により歌や踊り等を観賞し楽しんでいただいています。また、買い物や近所の散歩で気分転換を図っている。(現在は中止)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は家族に付き添いをお願いし、家族も状態が把握できるようにしている。緊急時や病状により家族と相談し、職員が付き添いもやっている。	総合病院を協力医療機関としており、密な医療連携体制ができている。受診は家族の同行をお願いしており、家族を通して医師に情報提供を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特別養護老人ホームの看護職員と情報を共有し、特変時には対応できる体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して治療が受けられるよう病院関係者と情報交換や相談に努めている。また、早期退院できるよう家族と相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に法人の方針を伝えている。継続し医療行為が必要であれば、本人・家族と相談の上、今後の治療について確認している。重度化については、できる限り今の生活を維持できるよう支援している。	母体法人が総合病院、特別養護老人ホーム等の利用者のニーズに合わせた各種の施設を有しており、重度化した場合は、ニーズに合わせて施設への移行ができる体制がある。入居時に終末期ケアの方針を説明するとともに、利用者・家族の意向に沿った対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに協力病院・緊急連絡先を明記している。施設内研修で応急手当等の勉強会を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人として年二回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。訓練を通し新たに対策改善を行い、職員は災害時の対応についての意識を高めている。	年2回の訓練のうち1回は消防署に来てもらい、消火器、消火栓や火災報知機の使い方等の指導を受けている。また、定期的に備蓄品の保管場所や賞味期限の確認も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしい生活が送れるよう自己決定しやすい言葉かけに努めている。入浴・排泄等、プライバシーに配慮し対応している。	利用者尊重の観点から、利用者一人ひとりの状況や生活歴、性格、習慣等を把握し、本人の価値感や生活スタイルを大切にしながら、ケアにあたっている。また、日常的な介護の場面では、プライバシーに配慮した対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼関係を築き思いや要望等、自己発言・自己決定ができる雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活歴や習慣を把握し、生活リズムを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月二回、施設内の理美容を利用し援助している。起床時の整髪、季節や好みに合った衣類選び、爪切り等の対応をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の栄養管理士が献立をたてており、用意された食材を職員と共に調理している。準備から片づけまで役割を分担し協力している。	以前は、利用者がエプロンを付け、職員と共に生き生きと食事を準備する姿が見られたが、現在は、コロナ禍の影響で制限的にならざるを得ない状況にある。利用者の好みを考えたメニューを提供する等、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や摂取量を把握し、夜間も水分摂取できるようにしている。月一回の体重測定の実施・記録を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後の口腔ケアを声かけしている。不十分な方には見守り、必要時には一部介助し清潔を維持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を記録し、一人ひとりのパターンを把握している。排尿・排便の頻度は日中の様子を夜勤者にも伝え、情報を共有している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけに心がけて、トイレ誘導を行う等、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの状態に合わせて食事や水分量に配慮している。体操等で身体を動かし自然排便を心がけている。本人希望や処方で下剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回を基本に入浴時間を設けている。体調や希望に沿うよう、順番や入浴時間は随時対応している。別日にも入浴ができるよう配慮している。	利用者の提案を受けて、入浴の順番を公平にするため、あみだくじで決めたり、入浴中だという事がわかるように、札をかけるようにしたりする等、利用者の意見や希望を取り入れながら、入浴支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調を観察し、日中でも休息の必要な方には声かけをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の診察を受け服用していただいている。診察日には症状の変化を医師に報告し指示を受けている。飲ませ忘れ、誤薬のないようチェック表に記録しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好調査の実施。作品作り・食事作り・おやつ作り等、一人ひとりに参加を促し喜びを感じてもらい、それぞれに力を活かした役割を持つ生活を送っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ等の計画をたて実施している。近所の散歩で外気に触れ気分転換を図っている。受診や面会時に家族と外出できるようお願いしている。	ホームの周辺は自然豊かな田園地帯であり、安全に散歩できる環境であるので、以前は頻繁に外出していたが、現在はコロナ禍の影響でできていない状況にある。その中でも、受診の際は家族とともに出かけられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお金をお預かりしている。買い物時には自分で支払いができるよう支援している。金銭管理は施設で行い、随時家族に報告している。現在はコロナウイルス感染防止のため中止している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望された時に援助している。手紙や年賀状を書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりの良い共用スペースで、戸外の景色を見る事ができる。ベランダには花壇を置き、中には作品を飾り、季節を感じていただいている。室内の温度調節も随時行っている。	建物の4階に位置し、南向きで日当たりが良く、リビングから自然の景色が眺望できる。また、共有空間は広く、ソファやテーブルが設置されており、ゆったり落ち着ける雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはテレビ・カラオケの設備もあり、利用者同士の交流や自由に過ごす時間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物を置き、落ち着ける空間を作っている。テレビや冷蔵庫等の持参で部屋でゆっくり過ごせるようにしている。	利用者の自作の人形が棚いっぱいに置かれている部屋、利用者が好きだった本が本棚(職員の手作り)にきちんと並べられている部屋、家族の写真や習字や折り紙等の作品が、壁一杯に飾られている部屋等、利用者それぞれの個性が反映されている居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるよう居室の環境は本人の生活スタイルを大切にしている。		